

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所の理念としている。事業所の基本方針として地域密着型のサービスの意識をふまえ、ユニット会議時には法人理念を確認をし、理解を深めている。	利用者の自立を支援していくために、利用者のできる事、事業所での役割を探し、その実践についてユニット会議等で共有し、利用者の参加により楽しい共有空間作り等を一緒に実施しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、地域活動への参加は限られている。太鼓のボランティアからは、活動のDVDをいただき、ユニット内で上映会を実施。 ※来年度は地域行事への参加を検討。	コロナ禍でも太鼓のボランティアから活動のビデオを借りて事業所内で実践したり、地域の催しに参加したり、外出会で地域に出かけています。ボランティアの活動情報を収集し再開に向けて準備をしています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の問い合わせや見学の際に在宅介護で困っていることなどお聞きし相談に答えている。他運営推進会議等で施設の取り組みを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、書面開催となっている。3月は対面での開催を予定している。運営推進会議の内容は記録にまとめサービスに活かす様にしている。	運営推進会議は書面開催とし、資料を配布したり持参して、その意見も議事録にまとめ、出来ることから実践しています。希望の多い外出についても果樹園や寺社への外出を実践し、高い評価を得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導監査課とは、施設運営(加算・提出書類内容)や、事故の発生・完了報告。生活支援課とは、担当ケースについて、主に連絡を取り合っている。サービス提供の上で不明なことは質問し、円滑にすすめるようにしている。	市の指導課とは施設運営や事故についても発生から完了までを報告し、生活支援課とは相談して生活保護受給者の被服費支給を得る等、関係部署との連絡・相談を密におこない、成果をあげています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会に参加し、どのような事が身体拘束に繋がるか理解を深めている。鍵の施錠は原則行っておらず(夕方～夜間のみ)、ご利用者が玄関へ行くとチャイムが鳴るので、行動を見守らせていただいている。	身体拘束について理解を深めるため外部の勉強会には積極的に参加しています。施錠は利用者が玄関へ行くとチャイムが鳴る仕組みを採用し、利用者を見守り、夕方から夜間を省き施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての勉強会を実施している。日常的に職員の声掛けなど意識し、職員同士で声を掛け、より良い言葉づかいが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用される方が入居されている。市職員(や後見人)の定期的訪問時に情報交換を行っている。また、施設内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ながら説明させていただき、その都度質問があればお答えしている。ご家族納得の上で契約をし、入居に繋げている。改定の際は、書面にて内容をお知らせし、面会時等、ご不明な点についてお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には直接様子をお話している。ご意見BOXを玄関に設置。体調不良時の連絡など、電話連絡でお伝えする機会もある。ご家族様との話について、介護ソフトにて全職員と共有している。※来年度はご家族参加の行事の実施を検討。	ご意見BOXを玄関に設置しています。利用者・家族の意見は直接面談や電話で聞き出し、介護ソフトで職員間で共有しています。利用者より買い物外出の希望が多く、感染人数が少ない10月末に実施しました。	利用者や家族が意見、要望を管理者や外部者へ表せる機会や仕組みを設けるよう検討をお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で意見を出している。又行事にも役割があり、担当が中心にやりたいことを相談しながら計画立てて実施できている。	ユニット会議等で職員の意見を聞き出し運営に反映させています。例えば、新しいパン食の日の導入や、誕生日会の運営方法等、又、勤務時間についてなど、職員の意見を必要に応じて運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員・契約職員は人事考課を行い目標設定、進捗状況など確認を取っている。又内部研修・外部研修に参加してもらう(今年度はZOOM)。ハピネス以外での刺激も受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に積極的に参加してもらっている。また、資格取得についても補助金利用や、問題集の提供など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修に参加し特養の介護職員の考え、通所事業所の介護職員の考えを聞き参考にしている。法人以外の同業者とは個別に連絡し、情報交換を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、ご本人の様子を聞き取る。入居後もご本人が困らないよう、統一したケアが出来るよう心掛けている。入居後モニタリングを行い、ご本人の様子・要望など聞き入れ安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の時点からご家族との関係作りは行い、入居前から定期的に連絡は取っている。入居が決まる際には事前の説明・ご家族の質問などお聞きし対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて情報の提供を行っている。話の結果でグループホームではなく他のサービスを提案させて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意な事を行って頂く事で職員も学ぶ機会を得ている。他、調理や裁縫と一緒に行う事で、入居者同士での関係性の構築や、昔の話など、職員が学ぶようなお話をたくさん聞かせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を職員だけで決めずご家族も加わって意見を聞く。面会時だけでなく、電話での会話を持つ機会など、コロナ対応で制限のある中、できうる限りコミュニケーションを取る様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの人や場所は把握できていない人が多い。お友達やなどの面会の機会や、電話での会話等を設けている。	開所後、まだ日の浅いこともあり、利用者個々の馴染みの人や場所について把握出来ていないため、訪問してきた友達などとの面会の機会を作り、電話で会話をする機会を設けることに努めています。	理念に沿った対応の一つとして利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との把握に務め、関係が途切れない支援方法を検討していきましょう。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間同士で声を掛けあつて教えてあげたり励ましたりしている姿を見守っている。時に言い合いになる場合やもともと折りが合わない方が近くに行ったりすることもあるが大きなトラブルにならないように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去が決まっても次のサービスに繋げるまでは関わらせて頂いている。退去後も苑外報など送らせていただき、関係を保っている。他施設入所する場合は他の施設へもご家族に許可をもらって情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事やその日の活動など利用者へお聞きしながら決めている。嗜好品をお聞きし誕生日のメニューに取り入れたりしている。	利用者の思いや好む暮らし方については、利用者からの聞き取りが難しかったり、家族も知らなかったりもしますが、日常生活の中から聞き出し、誕生日のメニューや支援に生かす工夫をしています。	利用者の近くまで外出し風景を見ながら馴染みの場所など把握する案は是非実行しましょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りで把握し又入居時に生活歴を作成していただく。それを踏まえ日々の活動に取り入れる。持ち込み品などは、なるべく馴染みの物を持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常において、見守りの体制を整え出来る範囲で行って頂く。今まで行えていた事が行えなくなった場合には介護ソフト内や、ユニットノートで申し送って職員全体で把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が記載している、介護ソフトやユニットノート、ユニット会議をもとに、計画作成担当者が介護計画を作成している。本人や家族、担当職員からの聞き取り調査のもと作成している。	利用者・家族、担当職員からの聞き取り調査のもと、介護ソフト、ユニットノート、ユニット会議などで情報の共有を図り、計画作成担当者が利用者の現状に沿った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子は、毎日記録し些細な変化も職員全員が共有できるように記録を閲覧している。必要に応じて話し合っている。個人記録や話し合った内容をもとに介護計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人や面会時にご家族とのお話で出来るだけ要望に応えられるよう取り組んでいる。又、本人希望での宅配などにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、地域資源の活用は出来ていない。 ※来年度は地域資源の活用を検討。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院を基本としご家族の承諾を得た上でかかりつけ医を決定している。ご家族の要望があれば、その都度対応している。何かあれば、かかりつけ医に電話連絡もできて指示を仰げる関係も築いている。	利用者家族の承諾を得た上で当事業所の提携先病院をかかりつけ医としています。医療に関する情報の引継ぎは、診療情報提供書にて実施し、不明な点は双方で連絡し合える関係を構築しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と連絡が取れる体制を作っている。その他、入居者に何かあった際など、指示や相談ができる環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、相談や様子など聞きやすい関係性ができている。 ※再オープン後、入退院なし。 入院者が出た際には定期的に連絡を取る。退院の許可が出た際には調整をして出来るだけ早期に退院できるようにする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設において行えることと行えないことを入居の時点で説明をしている。ADLの低下が見られてくる場合には他の機関(特養や老健、ケアマネジャー)等連携をとっている。	終末期については、入居時に施設で対応出来る内容を説明しています。ADLの低下が見られる時は特養、老健、ケアマネとの情報交換を密にし、利用者に情報を提供し、複数の選択枝をしめし、申し込み手続きの支援を行っています。	終末期について施設の対応は説明していますが、施設の対応に関する同意書が交わしていませんので、今後の為にも同意書を交わすことを検討してください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を内部研修として行っている。 ※来年度は外部研修への参加予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練と、年1回、夜間想定での避難訓練を実施している。近隣住まいの法人関係者と連携をとる体制をとっている。	年2回の避難訓練と、年1回の夜間を想定した避難訓練を実施しています。近隣の法人と災害時、避難が必要な場合の連携を図り、避難場所として当法人特養を設定しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもかかっているプライバシーの尊重は職員全体で常に心がけている。入居者への声掛けや話し方で気になるところがあれば、職員同士で注意をしあっている。	就職時業務マニュアルで、事業所の理念「一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない、言葉かけや対応」の研修を行っています。職員の対応で気になるところは注意しあえる関係を築いています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度ご希望を聞くようにしている。行事への参加についても、お聞きしている。答えが出しづらい方に関しては選択できるように選びやすいよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを守りながら、レクリエーションや体操など必要であることは促している。参加の有無に関してはご本人の意思も尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に好きなヘアブラシや鏡を用意して使用していただいている。訪問で来る美容室には本人の希望を言っていたいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの得意な事を探して促している。盛り付け・野菜のカット・テーブル拭き、お皿洗いなどそれぞれの役割がある。	利用者の好みや得意を捜し、職員が一緒に盛り付け・野菜のカット・テーブル拭き、お皿洗いなどそれぞれの役割を見出し実践しています。メニューにも好みを取り入れ、料理作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が落ちている人に関しては、食事量の把握をしながら、本人の好きな食べ物や、栄養補助食品などで補完して。1日の水分摂取量を記録し不足がちな方には多く摂れるように、好きな物や、シャーベットなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声掛けのみ行い、出来ない方は居室へ誘導し行っている。口腔内が気になる方は訪問歯科を取り入れ検診等していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿パターンは把握している。自立した方はおむつをうまく利用していただき、羞恥心の配慮をしている。誘導が必要な方は失禁しないよう、時間や本人の表情・様子を見てトイレにお連れしている。	個々の排尿パターンを把握し、時間や本人の表情、様子を見て失禁しないようにトイレ誘導をしてトイレで排泄する自立支援を行っています。夜間は時間を見て、部屋での交換や、トイレ誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂いている。身体が大ききなどにもよって、人より多く水分を摂っていただく場合もある。腸を動かすような運動や、散歩なども取り入れている。内服薬を使用する方が安心な方や、便秘が続く方は、薬の使用もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者に週に2回の入浴と伝えている。入浴スケジュールはあるが、都度、ご本人にお聞きし、その時の気分や状態により、時間や入浴日の変更を行っている。	入浴を嫌がる入居者には声掛けの工夫をしています。入浴のスケジュールは施設の都合で行わず、午前中から午後への変更や対応職員の変更などで、週2回の入浴を確保し、体の清潔維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度は就寝前に適温にしている。夜間・朝方なども季節に合わせて調整している。居室の電気についても、個々の要望に合わせて調整している。日中の昼寝に関しては夜にひびかない程度に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用はファイルに挟んであるものでその都度確認できるようにしている。薬が変わった時には薬の副作用について、モニタリングして観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事はお楽しみメニューを活用して食べたい物を取り入れるよう努力している。花の水やり、裁縫調理、カラオケ、塗り絵、散歩、洗濯物量みなど個々の好きな事を提供できるようにしている。 ※全員への対応が課題。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時にはご利用者が外を眺めたりされているのを見て散歩にお連れしている。買物支援は1回実施。 ※来年度は、買い物などにお連れする。ご家族の協力が得られれば対応していただく。行事などの外出は皆の意見を聞いて、行き先などを検討。	散歩を嫌う利用者へは声かけの工夫、入居者同士で誘い合うなどし、歩行困難者には車椅子を利用し、散歩時間を午前中から午後へ変更したり、出かける先も近くのお寺や神社の他外のベンチで日向ぼっこ等工夫をして外出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は自己管理で財布をお持ちになっている。敷地内の自動販売機で飲み物を購入されている。購入品(配達)の支払い等も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ絵手紙を書いた場合は、投函支援をしている。電話での会話希望があれば事務室にある電話をお貸ししている。ご本人持参の携帯で居室での会話も自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な日差しなどはカーテンやブラインドで調整している。灯りは天気によって調整する。装飾はうるさくない程度に季節感を取り入れ壁面などに飾っている。	入居者が月ごとに咲く花を折り紙で制作したものを廊下に飾り、共有場所には入居者がフラワーアレンジメントしてお花を飾り、季節を感じる空間、共有場所づくりに共に取り組み、利用者が笑顔で取り組める工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはしきりが無いが、入居者はそれぞれのところでくつろいでいる。一緒にいる入居者も自分たちで選んで好きな人同士で一緒にいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた家具などお持ちするよう伝え持って来ていただく。また家具の配置なども以前住んでいたような雰囲気に近いような配置にしている。	居室は利用者が居心地よく過ごせるように以前住んでいた居室で使い慣れた家具や好みの物を持参し、以前住んでいた雰囲気に近いように配置し、利用者が落ち着ける居室作りができる支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示をしておりわかるようにしている。		